



伊藤先生

りいる」といって、スポーツをすることに一番小言を言っていた年齢層がゲートボールを始めたんです。この年齢層の意識の変化は、ただそれだけに止まらず、息子も孫も特に婦人層は運動のため家からでやすくなったということがありま

す。大変な変化だと思えます。
水島 今、先生のおっしゃる通りです。私は若い頃は、スポーツとか運動とか余り好きでなかったんです。しかし、ゲートボールを知ってから、スポーツは本当に良いものだと思えてわかってました。

今朝も五時半からやってきました。夕方はゲートがみえなくなるまでやりま



光永さん

私は、八代総合社会教育推進協議会委



松浦さん

伸びています。

コミュニティ広場の誕生

司会 婦人のスポーツクラブは新しい井戸端会議の誕生だと思ふんです。菊池市の婦人のスポーツクラブでは、練習のはじまる前とか休けいの時間に、先輩の方がつげ物のおいしいつけ方、着物の縫い方を教えたり、お互いに料理のし方を教えあったりして、練習より色々話しかけることが楽しくてクラブにはいついてる人もいるとか、それで練習時間にあまり遅れる人はいないそうですが、こうなるとスポーツクラブは立派なコミュニティづくりと言えらると思ふんです。

松浦 そうですね、私達のクラブでも、ミーティングの中にそういうものをとり入れています。クラブには色々な人がいますので、栄養教室に参加している人は、教室で習ったカルピスの作り方などを教え、料理屋の奥さんは持ってきた美味しい弁当の作り方を披露され、お互いに子供の躰の問題を話しあったりしています。そういうことでお互いの関係は普

員、民生委員、嘱託員(区長)という立場から、老人の健康、生きがいということを目ざしてゲートボールを推進しています。去る二月十六日校区二十四町内の嘱託員全部を集めてゲートボールの研修会を行いました。そして、地域にかえり町内のお年寄りに呼びかけてチームをつくって下さいということでも嘱託員を核にして普及をはかっているんです。

近く校区大会をやりますが、私のところは、他の農村部が精鋭をえりすぐって一チーム編成で出てきても四チームは出場します。それで多くの人達が楽しむことができます。勝負は別です。

スポーツで広がる連帯の輪

司会 ゲートボールを自分でもやり、人にもすすめられて良かったと思うことが色々あったと思いますが、

水島 私の所は商店街ですが、腰が痛いやら、どこか具合が悪いと言っては、しよっちゅう薬ばかり飲んで、布団屋のおやじさん、ゲートボールをはじめから、体の調子が非常によくなり、薬とはおさらば「こりやええ」というわけ

で、この頃は得意先まわりを早くすませ、ゲートボールに出かけてくるんです。「おかげで、家のおやじが、元気になり、がまだすようになりました」と奥さんからお礼を言われています。

また、子供のいない老夫婦にとつては、このゲートボールは生き甲斐ですよ、皆んな実に来て楽しくやっています。昨日まで道で逢っても挨拶もしていなかった者同志が元気な声で挨拶をしますね。「お茶でも飲んでいきなせ」ということになる。これが私はスポーツの良さだと思えます。

そして、嫁と姑の仲の悪かったのが、姑がゲートボールをはじめボールをたたくことでストレス解消ができ、嫁に小言をいわなくなり、家庭が非常に明るくなった所もあるんですよ。

司会 松浦さんは婦人バレーボールの同好会のリーダーとして活躍されていますが、

松浦 バレーボールをやると魅力的になりますよ、私は練習をはじめから十キロやせました。身体の筋肉はしりり弾力性も出ます。バレーボールをやるとようになってから、魅力的になったとクラブの旦那さん同志で話しているらしいです。

それに、今まで教育ママで子供の顔をみると「勉強、勉強」と言っていた奥さんが、バレーボールクラブにはいつてスポーツの楽しさ良さを知ってから、逆に、「勉強ばかりでなくスポーツをしろさい、クラブで一日一回は汗を流した方が、勉強も良くなります」と子供さんにハッパをかけています。子供さんが伸び

通の近所つきあいより濃密です。それだけになんでも言えますし、尋ねもします。一口で言うとスポーツのつき合いは裸のつき合いです。
水島 そうですよ、言いにくいことも、ゲートボールで知りあった仲では何んでも言えますし。言われても素直にきけますし、一緒に体を動かすと言うことは健康のためだけでなく本当に良いと思ふんです。

司会 福島さん、町のスポーツ行政を担当して色々見、きき、そして考えていらっしゃることも多いと思ふんですが、

福島 私は北部町ですが、本当に老いも若きもスポーツが盛んになりました。さき程話の出した老人のゲートボールですが、私の町でも、からすの鳴かん日はあっても、ゲートボールをやっていない日はない状態です。雨が降っても、カッパを着てやっているチームもあります。自分達町内の専用のゲートボールコートづくりにしても、お年寄りが自ら中心になってやっておられます。老人会は割

生涯スポーツの推進を

重要な拠点づくり・動機づけ

幼稚園・保育園を運動の拠点に

司会 コミュニティスポーツを推進していく上でどの単位といえますか、どの程度の単位が適当であるのかということですが、

に金を持っていますから、ブルドワーザを雇っているんです。これには主に空地が利用されていますから、美しい地域づくりにも役立っているんです。一番良いのは、スポーツは自分達でやるんだとの意識から、自分達のコートは自分達でと、地区所有の土地とか、個人の土地を利用してコートをつくっておられ、それを見て、青年とか、婦人とかが一緒になつてコートの整備をやっているところもあります。そこから対話が生まれていることです。

それぞれの町自体の考えもあると思ふますが、スポーツを通しての町づくりと言ふか、現在町づくりをするとなると、私はスポーツが最もよいと思ふます。特に私の町では、昔から住んでいた人々と新しくこしてこられた新興住宅の人々とのつながりにはスポーツ以外に手立てがないように思ふます。体育祭をやる、ゲートボール大会やソフトボール大会をやるというようなことから、まず親睦をはかるといふ具合にですね。

ます。行政がねらいとしていることは住民の福祉であり行政の円滑な推進であります。町民が自治意識を高め、連帯感に立つてこそ、住民参加の自治行政の確立ができ新しい地域社会が築きあげられるものと思ふます。けつしてスポーツを行政の効果的な推進のための手段として利用することではなく住民のコミュニティづくりの手段として活用するものであることを御理解いただきたい。竜北町でのスポーツによるコミュニティづくりを具体的に記してみますとまず基本的に考えなければならぬのが町民の生活圏におけるスポーツの普及であります。いわゆる地区におけるスポーツ活動の推進を図ることにあると思ふます。したがって本町では地区ぐるみの体育レクリエーションの普及に最大の努力をほらいスポーツ環境づくりを進めているのでございます。

以前は祭りや結婚式又、葬祭等がコミュニティづくりの場でありましたが時代の近代化と合理化によって祭りがなくなり冠婚葬祭もその機能をなくしてしまいました。それに変わるコミュニティづくりの方法としてスポーツが導入され、新しい連帯意識が芽ばえ住民の生活のパートナーとして考え始められました。

私の町には二十四の部落があります。すべての地区が地区民総出で各戸より運営費を出し合い、ソフトボール、バレーボール、相撲、ゲートボール等の競技を楽しみ、これが年中行事として、毎年実施され、老若男女総出の地区ぐるみのコミュニティづくりの場です。又町の段階では各種目ごとに大会を開催し町の全体的なつながりを深めるように努めているのでございます。コミュニティづくりは一日のスポーツ大会に参加することのみではなく、その大会を目ざして各グループ、地区等で、練習する過程に自然に生れ、これが尊いものであり、意図的につくり上げられるものではないと考えるのでございます。

大衆スポーツとして町民の生活のなかに根強く浸透して始めて社会の活力を住民の幸福の源泉である健康と体力の維持増進が確立され、コミュニティスポーツが新しいふるさとづくりの一翼を担う要素として考えなければならぬと思ふものであります。

私は一番の単位は町内会だと思ふます。そのためには、幼稚園、保育園をひとつの大きな拠点にしなければと考えています。
それぞれ幼稚園の庭には夜間照明があつて、夜はいつでもバレーコートに、ゲートボールに利用できるといふ姿です。それだけの広さがぜひ欲しいですね。
子供の運動意欲を増すことはもちろん、じいちゃん、ばあちゃん、お母さ